

モニタリング結果報告書 (令和2年度)

1. 施設概要

施設名	県民ホール（本館・神奈川芸術劇場）、音楽堂		
所在地	県民ホール本館：横浜市中区山下町3-1 神奈川芸術劇場：横浜市中区山下町281 音楽堂：横浜市西区紅葉ヶ丘9-2		
サイトURL	県民ホール本館： https://www.kanagawa-kenminhall.com/ 神奈川芸術劇場： https://www.kaat.jp/ 音楽堂： https://www.kanagawa-ongakudo.com/		
根拠条例	県民ホール本館：神奈川県立県民ホール条例 神奈川芸術劇場：同上 音楽堂：神奈川県立音楽堂条例		
設置目的(設置時期)	県民ホール本館：県民の文化芸術の振興及び福祉の増進を図るため (昭和50年1月) 神奈川芸術劇場：同上 (平成23年1月) 音楽堂：県民の音楽芸術の振興及び福祉の増進を図るため (昭和29年11月)		
指定管理者名	公益財団法人神奈川芸術文化財団		
指定期間	H28.4.1～R3.3.31 (2016年) (2021年)	施設所管課	文化課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
<p>※新型コロナウイルス感染症が3項目評価（利用状況、利用者満足度、収支状況）に与えた影響及び対応状況も含めて「総合的な評価の理由と今後の対応」を記載。</p> <p>(一体としてのコメント) 第3期指定管理提案書に基づき、神奈川県立県民ホール本館、神奈川芸術劇場及び音楽堂3館の一体としての合同プロジェクトに取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オープンシアター等一部事業が中止となったほか、一部オンライン配信とするなど実施方法を変更した。 また、満足度調査結果及び収支状況は良好であったが、新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、施設により4月から7・8月の間、閉館としたほか、再開後も多くの事業が中止または延期され、開催できた事業でも収容人数を調整するなどしたため、利用率・利用者数は大幅に減少した。これらの結果、3館の評価及び一体としての3項目評価をB評価にした。</p> <p>■県民ホール(本館・神奈川芸術劇場)について 令和2年度は、県民ホール、神奈川芸術劇場ともに、提案に基づいて適切に管理運営が行われた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、施設利用者数は目標値を大幅に下回ることとなった。利用者アンケートについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け回収数が減少したが、満足度は高評価を維持した。結果、利用状況はC評価となったため、利用者の満足度がS評価、収支状況がA評価となったが、3項目評価をB評価にした。</p> <p>■音楽堂について 令和2年度は、提案に基づいて適切に管理運営が行われた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、施設利用者数は目標値を大幅に下回ることとなった。利用者満足度については、高評価を維持した。結果、利用状況はC評価となったため、利用者の満足度及び収支状況がS評価となったが、3項目評価をB評価とした。</p>

<各項目の詳細説明>

■県民ホール(本館・神奈川芸術劇場)について

令和2年度は、令和元年度に引き続き県民ホール本館、神奈川芸術劇場及び音楽堂3館一体の事業を行った。一柳慧芸術総監督就任20周年プロジェクト等の合同プロジェクトとしてオーケストラや展示等を実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オープンシアター、芸術監督プロジェクトのオペラが中止となった。

◆管理運営等の状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一部の有観客公演及び企画の代替・補完手段としてオンライン配信を導入した。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う神奈川県の方針に基づき、施設の閉館や利用制限等を実施したため、各施設において利用者には細やかな情報提供及び説明を行ったほか、施設利用に当たっては業界団体作成のガイドラインを参考に、専門家の意見を取り入れて独自のガイドラインを6月に作成し、利用者及び来館者に周知するとともに、施設内に必要な感染対策を講じ、安全安心な施設運営を進めた。

◆利用状況

新型コロナウイルス感染症対応としての閉館や公演中止等の影響もあり、県民ホール本館は、目標値を654,000人としていたが、利用者数は74,437人に止まり、利用者数の目標達成率は13.3%となった。一方、神奈川芸術劇場においても同様に利用者数は64,633人に止まり、利用者数の目標達成率は27.1%となり、2館合計では目標値854,000人に対して、139,070人となり、利用者数の目標達成率が16.3%となったためC評価とした。

◆利用者の満足度

県民ホール本館及び神奈川芸術劇場では12月から1月にかけて実施した。実施期間中の対象団体が少なかったこともあり、神奈川芸術劇場利用者からの回収はなかったが、県民ホール本館では上位2段階の回答割合が100%となったためS評価とした。

◆収支状況

県民ホール本館が収支比率103.50%、芸術劇場も収支比率100.82%とともに当初予算を上回り、2館を合わせた収支比率は102.03%となったため、A評価とした。

◆苦情・要望等

県民ホール本館では、バリアフリーに関するハード面や新型コロナウイルス対応についての意見が寄せられた。適宜エレベーターを案内する、新型コロナウイルスに対する県指針等の説明を丁寧にするなどの対応を行っている。また、神奈川芸術劇場では、新型コロナウイルス対応について意見が寄せられた。新型コロナウイルス対応案内の強化や座席配置の改善等の対応を行った。

◆事故・不祥事等

芸術劇場において、令和2年9月に主催講座の参加者へのメール誤送付があったが、速やかに送付者に連絡をとり、第三者への漏えいを防ぐことができた。

◆労働環境の確保に係る取組状況

指摘・指導等はなかった。

■音楽堂について

◆管理運営等の状況

令和2年度は、令和元年度に引き続き県民ホール本館、神奈川芸術劇場及び音楽堂の3館一体の事業として一柳慧芸術総監督就任20周年プロジェクト等の合同プロジェクトとして演奏会やライブの無料配信等を実施した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一部の有観客公演及び企画の代替・補完手段としてオンライン配信を導入した。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う神奈川県の方針に基づき、施設の閉館や利用制限等を実施したため、各施設において利用者には細やかな情報提供及び説明を行ったほか、施設利用に当たっては業界団体作成のガイドラインを参考に、専門家の意見を取り入れて独自のガイドラインを6月に作成し、利用者及び来館者に周知するとともに、施設内に必要な感染対策を講じ、安心安全な施設運営を進めた。

◆利用状況

新型コロナウイルス感染症対応としての閉館や公演中止等の影響もあり、目標値を166,000人としていたが、利用者数は17,999人に止まり、利用者数の目標達成率は14.3%となったため、C評価とした。

◆利用者の満足度

音楽堂は12月から1月にかけて実施し、上位2段階の回答割合が100%となったためS評価とした。回収率は55.6%となっており、引き続き、利用者幅広く回答してもらえるように、使用申込時にアンケートを直接手渡すなどの対応を継続し、回収率の向上に努める必要がある。

◆収支状況

音楽堂の収支比率は105.82%で当初予算を上回ったため、S評価とした。

◆苦情・要望等

新型コロナウイルス対応についての意見が寄せられた。新型コロナウイルスに対する県指針等の説明を丁寧にする、周知不足に対して謝罪する等の対応を行った。

◆事故・不祥事等

指定管理者に起因する事故等はなかった。

◆労働環境の確保に係る取組状況

指摘・指導等はなかった。

3項目評価

B	<参考> 県民ホール	<参考> 音楽堂	S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要 ※3項目評価とは、3つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう
	B	B	

【神奈川県立県民ホール】

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	月3～4回	
随時モニタリングにおける指導・改善勧告等の有無	有・ 無	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関するコメント
<p>1. 一体運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3館の役割、機能を踏まえて、各施設を運営する。 ・音楽分野と演劇分野、それぞれに芸術監督を置き、その指導のもと神奈川からの芸術文化の創造・発信を強化する。 ・県や関係機関と一体となって東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、文化プログラムを推進する。また、子ども・青少年に次世代へ文化芸術の豊かさや多様性を伝えていく。 ・3館一体で効率的かつ効果的な施設運営を行い、利用者サービスの改善と、利用率の維持・向上に努める。 	<p><実施状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は年間を通じて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に伴い、政府及び神奈川県の方針に従い、各施設を運営した。 ・県の基本方針により、県民ホール本館では4月7日～8月31日まで閉館、神奈川芸術劇場では4月7日～7月13日まで閉館し、また2度目の「緊急事態宣言」が発令された令和3年1月8日～3月21日まで原則休館となったため、多くの催し物が中止または延期され、年間利用率も大幅に下がった。 ・入場者数は県民ホール本館が年度目標654,000人に対して実績値で74,437人、神奈川芸術劇場が年度目標200,000人に対して実績値で64,633人と、いずれも大幅な減少となった。 ・神奈川の文化力を象徴する3館合同事業として、「オープンシアター」及び一柳慧芸術総監督の神奈川芸術文化財団芸術総監督就任20周年記念プロジェクトの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、県民ホールの「オープンシアター」は中止した。それ以外については、当初の予定どおり、または内容を変更して実施した。 ・また、平成28年度より実施してきた一柳慧、白井晃、両芸術監督による「芸術監督プロジェクト」では、その集大成として、ミヒャエル・エンデの傑作「モモ」を題材にした一柳慧作曲のオペラを白井晃演出で再創造する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公演中止となった。 	

<p>2. 適切な管理運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料収入増及び経費の節減に努めるとともに、サービスの向上に取り組むなど適切な管理運営に努める。 ・また、防犯、防災対策、安全対策にも取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民ホール本館では、4～8月までの閉館に伴い全利用者へ催し物中止・延期の要請を行った。また1～3月の原則休館に伴い利用者の自主的な催し物中止・延期が相次いだ。そのことにより、単発公演が主たる県民ホール本館の利用率は大ホール35.3%、小ホール60.3%、会議室61.0%、ギャラリー52.2%となった。また、利用料収入は72,828千円と、年度当初予算額256,056千円から大幅な減少となった。 ・神奈川芸術劇場では、平成29年度から誘致している劇団四季の長期貸館公演が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により99回が中止となったが、劇場内のスケジュールを柔軟に調整して千秋楽を延長し、上演回数を確保する等、利用率の維持に努め、全体の利用率は83.3%となった。 ・施設の維持管理においては、主要な委託業務を県民ホール本館、神奈川芸術劇場で一体的に運用することで効率化を図った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインや、感染者発生時の対応フローチャートの作成を行ったほか、「LINEコロナお知らせシステム」への登録を促すポスターや「感染防止対策取組書」、「3密」を避け「マスクの着用」「飲食・会食をお控えいただくこと」など劇場マナーを呼びかけるサインを館内に掲出し、利用者・来館者に対して感染拡大防止を図った。館内の消毒、消毒液・サーモグラフィの設置、飛沫対策のためのビニールカーテン・パーテーションの設置、足元マットの設置、換気の強化、スタッフのマスク着用の徹底等を行った。 ・県民ホール本館では計4回、神奈川芸術劇場では計2回、地震及び火災発生を想定した避難訓練を実施した。訓練での課題は今後の防災計画に反映していくこととした。 	
---	--	--

<p>3. 自主的な企画事業について</p> <p>【県民ホール本館】</p> <p>●芸術文化創造振興事業</p> <p>1 大ホール事業</p> <p>○国際的な水準を満たす多彩で良質な芸術文化を創造するとともに、県民により多くの鑑賞機会を提供する。</p> <p>○芸術総監督のディレクションによる新しい表現の追求と意欲的な芸術文化を創造発信する。</p> <p>2・小ホール事業</p> <p>日本の公共ホールで最初に設置されたオルガンを活用した事業や、舞台芸術に関する講座を実施するほか、実験性の高い先鋭的な企画を実施し、近隣の類似音楽ホールとの差別化を図った事業を展開する。</p> <p>3・ギャラリー事業</p> <p>県との共催で「神奈川県美術展」を開催。気鋭の現代美術作家の個展、または若手作家のグループ展を開催することで、優れた現代美術の紹介に努める。</p>	<p>【県民ホール本館】</p> <p>●芸術文化創造振興事業</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月～8月が閉館となったため、閉館中の全ての主催・共催事業が中止となったほか、海外から招聘予定の演奏者の渡航制限等の影響等もあり、その後も事業内容の変更や中止等が発生した。</p> <p>・再開後の10月に、共同制作オペラ「トゥーランドット」を実施した。渡航制限による出演者変更等はあったものの、稽古場から巡回公演（大分、山形）を含む本番公演の終了まで、万全の感染予防対策のもと、無事に3公演地での上演を実施することが出来た。</p> <p>・3館合同プロジェクトである一柳慧芸術総監督就任20周年記念公演として、「共鳴空間<<レゾナント スペース>>」を大ホールにて実施した。一柳慧のライフワークであるオーケストラ作品から、小編成、協奏曲、交響曲の代表作を取り上げ、戦後の音楽シーンを牽引し続ける一柳の創作の軌跡を辿る演奏会となった。</p> <p>・ギャラリーでは、ニューヨークを拠点に活動する気鋭の作家、大山エンリコイサムによる過去最大級となる個展「夜光雲」を開催した。</p> <p>[主催事業] (ホール事業) [5事業5演目6公演2企画2回 入場者数4,597人] (ギャラリー事業) [1事業1企画2回1展覧会 入場者数3,635人]</p> <p>[共催事業] [6事業/6演目6公演・1企画2回 入場者数3,533人] (ギャラリー事業) 1事業1展覧会 入場者数760人</p>	
<p>【県民ホール本館】</p> <p>●芸術文化鑑賞普及事業</p> <p>・県民の芸術文化に対する関心、理解をさらに深め、新しい芸術文化の世界を紹介することを目的にオルガン・プロムナードコンサート、オープンシアター、ワンコイン・コンサート、舞台芸術講座を実施する。</p>	<p>【県民ホール本館】</p> <p>●芸術文化鑑賞普及事業</p> <p>・当該事業の中核となる「オープンシアター」や県域での巡回公演「ヘンゼルとグレーテル」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。再開以降に「オルガン・プロムナード・コンサート」等を実施した。感染症対策のため、客席数を減じての実施となったが、例年よりもアンケートの回収数が多いなど反響は大きく、実演での音楽鑑賞の機会を熱望する県民ニーズに応えた。</p> <p>[2事業5演目5公演2企画2回 入場者数1,166人]</p>	

<p>【県民ホール本館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人材育成事業 ・地域の芸術文化振興と創造発信力の向上を担う人材を養成する。 ・文化芸術の拠点施設の特性を活かし、未来の芸術文化活動の担い手となる実演家を養成する。 ・施設運営に関する課題や解決策を、県内の他の文化施設と共有することで全体のレベルアップを図る。 ・県内や近郊の音楽大学、美術大学等と連携した事業を実施する。 	<p>【県民ホール本館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人材育成事業 ・アーティスト養成の分野では、オペラ「トゥーランドット」のアンダースタディを経験した若手歌手がその後の民間オペラ公演で主役級に抜擢されるなど、大規模上演の場を持つホールとしての役割を果たした。 ・大学連携では、演奏会を企画し実施するプロジェクトを音楽大学と協働し、感染症対策のもと、いかに演奏会を実現するかという現実的なテーマに取り組むこととなり、将来、演奏家や制作者を目指す学生に貴重な体験の場を提供した。 <p>[2事業3企画4回 参加者数32人]</p>	
<p>【神奈川芸術劇場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●芸術文化創造振興事業 ・芸術監督の芸術方針と指導の下で、①芸術監督自ら企画・演出・出演する公演等、②国内外のトップレベルの演出家等による演劇、ダンス等の公演、③日本の舞台芸術の最前線を様々な切り口で紹介する公演、④日本の伝統芸能の公演など、創造型劇場ならではの高度な舞台機能と企画制作力を活かして情報発信性の高い公演を実施する。 	<p>【神奈川芸術劇場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●芸術文化創造振興事業 ・白井晃芸術監督の任期最終年度であり、開館10周年を迎える年として、バラエティに富んだ作品をラインアップしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、4月から8月までの事業はすべて延期もしくは中止となった。しかし、閉館中においても、劇場広報活動は継続し、オンラインバックステージツアーの動画配信、過去の主催公演のダイジェスト映像の配信、劇場広報誌「ANGLE」のオンライン版、白井芸術監督とゲストによる対談動画の配信等を行った。 ・9月の劇場再開館以降は、十分な感染対策のもと、延期演目の開催を含め、プログラムの実現、多様な表現の発信に努めた。 ・任期を通じて白井芸術監督が意図してきた、次代を担う若手中堅の演出家振付家に創作上演の機会を作り育成する取り組みの集大成として、谷賢一、森山開次、杉原邦生に〈ホール〉での作品上演を委嘱し、大きな成果をあげた。 ・また、令和3年4月から芸術監督に就任する長塚圭史は、アーサー・ミラー作「セールスマンの死」を再演し、次代へのバトンタッチを印象つけた。 <p>主催事業において以下の3つの賞を受賞し、創造型劇場として全国に発信力を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第72回読売文学賞【戯曲・シナリオ賞】 受賞者：岡田利規（「未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀」に対して） ・第28回読売演劇大賞 最優秀スタッフ賞 受賞者：齋藤茂男（「アルトゥロ・ウイの興隆」ほかにおける照明デザインに対して） ・第46回（令和2年度）菊田一夫演劇賞演劇大賞 受賞者：風間杜夫（「セールスマンの死」ほかにおける演技に対して） <p>[主催事業] [13事業11演目89公演4企画4回1展覧会 入場者数23,074人 配信等視聴者数約5,927] [提携事業] [3事業3演目16公演1企画1回 入場者数2,402人 配信等視聴者数263] [企画制作事業] [1事業2演目6公演 入場者数2,241人]</p>	

<p>【神奈川芸術劇場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際芸術交流創造事業 ・開館以来、国際交流基金、横浜市等と共同で実施している「国際舞台芸術交流ミーティング (TPAM)」を継続して実施し、海外の芸術家等との国際共同制作に取り組み、これらの活動の集大成として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせて国際的な舞台芸術フェスティバルを開催する。 	<p>【神奈川芸術劇場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際芸術交流創造事業 ・神奈川芸術劇場開館以来実施している国際舞台芸術ミーティングin横浜 (TPAM) も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、例年のように、アジアをはじめ海外からの制作者やフェスティバルディレクターの招へいは難しかったが、技術面での支援を行い、オンラインを活用することで、国際色を失うことなく事業を実施した。 <p>[1事業4演目12公演3企画3回 入場者数1,261人 配信等視聴者数1,528]</p>	
<p>【神奈川芸術劇場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県民創造支援事業 ・地域の文化芸術の拠点施設としての役割を踏まえ、県が文化施策として推進するマグカル事業に対して会場提供等の協力を行うとともに、県内で活動する劇団等の作品づくりを劇場の制作・技術スタッフがサポートすることにより、県民の芸術創造活動の水準向上と活性化を図る。 	<p>【神奈川芸術劇場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県民創造支援事業 ・マグカル事業である「マグフェス'21 かながわ短編演劇アワード2021」の演劇コンペティション、戯曲コンペティションを<大スタジオ>にて無観客上演、ライブ配信にて実施した。 <p>[共催事業] [2事業3企画4回 入場者数80人 配信等視聴者数604]</p>	
<p>【神奈川芸術劇場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●芸術文化鑑賞普及・人材育成事業 ・神奈川の舞台芸術の活性化には、芸術創造に関わるプロフェッショナルな人材が不可欠である一方、演劇、舞踊等に高い関心をもち、日常的に公演に足を運ぶ観客を増やしていくことが必要なことから、創造型劇場としてのノウハウを生かして、専門的な能力をもつ人材の育成や舞台芸術の普及等に取り組む。 	<p>【神奈川芸術劇場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●芸術文化鑑賞普及・人材育成事業 ・鑑賞普及事業として、毎年夏休みの時期に実施しているKAATキッズ・プログラムは、前年度に上演した山本卓卓演出「二分間の冒険」の再演、松井周作・演出による新作「さいごのひとつ前」の上演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け、2事業とも中止となった。「二分間の冒険」については、初演時のコンテンツを活かした映像を制作し、配信した。 ・人材育成事業においても、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、事業内容や規模を変更することとなったが、コロナ禍において可能な手法により、「人をつくる」創造型劇場・公立文化施設としての役割を担うべく、舞台芸術に関わる多様なジャンルの人材を育成する取り組みを行った。また、前年度に続き、舞台芸術鑑賞に関わる情報保障に取り組み、「視覚言語がつくる演劇のこぼれ」と題した新たな取組を開始した。 <p>[芸術文化普及事業：3事業3企画3回 入場者数0人 配信等視聴者数6,669] [人材育成事業：1事業4企画11回 参加者数3人 配信等視聴者数920]</p>	

<p>【神奈川芸術劇場】</p> <p>●地域等連携事業</p> <p>・地域の拠点施設として県全域の文化芸術の振興を図るため、地域の公立文化施設等と連携した巡回公演等を行う。また、横浜市内の文化団体が主体となって実施する文化イベントや、近隣商店街による地域活性化イベントに対し積極的に参画、協力し、文化芸術を通じた地域の賑わいづくりに貢献する。</p>	<p>【神奈川芸術劇場】</p> <p>●地域等連携事業</p> <p>・次期芸術監督・長塚圭史演出「セールスマンの死」を厚木市文化会館にて上演予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発令による厚木市内の公共施設の休館に伴い、中止となった。</p>	
<p>●4. 事業の収支バランスの安定を図る取り組み</p> <p>・指定管理料以外の収入確保の取り組みを図る。</p>	<p>●4. 事業の収支バランスの安定を図る取り組み</p> <p>・日本芸術文化振興会（文化庁）「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」補助金、芸術文化振興基金、一般財団法人地域創造及び民間の助成団体等、従来からの助成金の確保に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症のまん延の影響に対する新規助成金についても積極的な各特申請・活用を図った。</p> <p>【補助金・助成金獲得実績】</p> <p>・日本芸術文化振興会（文化庁）「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」</p> <p>《劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業》1件53,921千円</p> <p>《地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業》1件19,975千円</p> <p>《共同制作支援事業、劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業》2件67,956千円</p> <p>・文化庁文化芸術振興費補助金（文化施設の感染症防止対策事業）3件2,808千円</p> <p>・地域創造 地域の文化・芸術活動助成事業 1件2,000千円</p> <p>・芸術文化振興基金 舞台芸術・美術等の創造普及事業 1件3,176千円</p> <p>・特定非営利活動法人映像産業振興機構 コンテンツグローバル需要創出促進事業補助金（J-L0Dlive）4件65,216千円</p> <p>・その他民間助成団体 3件2,100千円</p> <p>【賛助会員・協賛金実績】</p> <p>《賛助会員制度による寄付金》52者4,960千円</p> <p>《個別協賛・その他》13者1,386千円</p> <p>《広告協力・チケット買取協賛》5社371千円</p> <p>《チケット料金払い戻し時における寄付》41者243千円</p>	

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況も含めて、「実施状況等」欄に記載。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
リフレッシュ・サービス	自主事業公演等開催時に、劇場サービスとして、ホール内ビュッフェやロビー等で飲食物等の販売の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環として、ホール内での飲食を禁止したため、実施を見合わせた。

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況も含めて、「実施状況等」欄に記載。

5. 利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和2年度
利用者数※県民ホール本館	575,680	560,777	74,437
利用者数※神奈川芸術劇場	283,981	238,482	64,633
対前年度比 県民ホール本館		97.4%	13.3%
対前年度比 神奈川芸術劇場		84.0%	27.1%
目標値 県民ホール本館	545,000	654,000	654,000
目標値 神奈川芸術劇場	200,000	200,000	200,000
目標達成率 県民ホール本館	105.6%	85.7%	11.4%
目標達成率 神奈川芸術劇場	142.0%	119.2%	32.3%

目標値の設定根拠：

経営改善目標

利用者数の算出方法（対象）： 主催事業は指定管理者が確認、共催・提携・貸館事業は主催者からの報告による（対象者：施設への来館者、利用者）

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】 （※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載）

①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う県の基本方針に基づき、4月7日から8月31日まで原則として閉館したほか、9月の再開以降もイベント開催制限に伴い収容率を制限する等の対策を行ったことから、例年と比較して県民ホール本館はおよそ500,000人、神奈川芸術劇場はおよそ135,000人の入場者が減少した。

②令和2年度の対応状況

閉館期間中に、県民ホール本館、神奈川芸術劇場ともに施設利用者、来館者に向けた新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインを作成し、その有効性を検証するため、感染症の専門家による現地視察や公演のプレビューによる感染対策の実証等を行った。また、利用者、来館者に向けて、「LINEコロナお知らせシステム」への登録を促すポスターや「感染防止対策取組書」、「3密」を避け「マスクの着用」、「飲食・会食をお控えいただくこと」など劇場マナーを呼びかけるサインを館内に掲出し、感染拡大防止を図った。また施設の感染対策として、入口へのサーモグラフィの導入、各所への手指消毒液、アクリルパーテーション、ビニールパーテーションの設置、換気の強化、委託業者を含む施設スタッフへのマスク着用や感染対策の徹底などに取り組んだ。

神奈川芸術劇場では、7月10日に県の対処方針に基づき大規模イベントの自粛要請が解除されたことから、7月14日より特定貸館公演（劇団四季公演）を先行して再開した。

9月の施設全面再開以降は、県民ホール本館、神奈川芸術劇場ともに県の対処方針に基づくイベント開催制限により、歓声を伴う公演は収容率50%以内での実施を利用者に要請したほか、令和3年1月8日～3月21日の緊急事態宣言中のイベントについては、すべて収容率50%以内での実施を要請した（既存販売分を除く）。

6. 利用者の満足度

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
		(1) 簡易アンケート 管理施設の窓口等に常時用紙を備え、管理施設の利用者等に対して、簡便な方法で常時実施するアンケート (2) 詳細アンケート 年1回、時期を定めて、より詳細な質問項目のアンケートを、管理施設の利用者等へのアンケート用紙の配布及び管理施設ホームページにおいて実施し、結果を分析するアンケート

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 今回、施設をご利用いただいた全体的な印象をお聞かせください

実施した調査の配布方法 用紙配布 回収数/配布数 10 / 48 = 20.8%

配布(サンプル)対象 公演等の主催者

		満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	県民ホール本館	8	2	0	0	10	
	神奈川芸術劇場	0	0	0	0	0	
回答率	県民ホール本館	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%		
	神奈川芸術劇場	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
前年度の回答数	県民ホール本館	15	4	0	0	19	
	神奈川芸術劇場	2	0	0	0	2	
前年度回答率	県民ホール本館	78.9%	21.1%	0.0%	0.0%		
	神奈川芸術劇場	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
回答率の対前年度比		101.3%	95.0%	0.0%	0.0%		
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

【新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響と対応状況】
(※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響

令和2年度の調査実施期間である12月1日から1月6日は、新型コロナウイルス感染症の影響により例年と比較して利用者数が少なく、神奈川芸術劇場においては対象となる利用がなかった。

県民ホール本館では、特に新型コロナウイルスに伴う満足度の低下に言及したものはなかった。

②令和2年度の対応状況

満足度調査において新型コロナウイルスに関する相談要望等は特になかった。

7. 収支状況

評価	≪評価の目安≫ 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務 県民ホール本館]

(単位：千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	617,303	228,208	405,813	備考のとおり	1,251,324	1,251,324	0	
	決算	617,303	238,339	391,389	備考のとおり	1,247,031	1,200,400	46,631	103.88%
前年度	当初予算	634,357	252,000	324,014	備考のとおり	1,210,371	1,210,371	0	
	決算	634,357	234,979	300,259	備考のとおり	1,169,595	1,164,797	4,798	100.41%
令和2年度	当初予算	632,329	256,056	244,212	備考のとおり	1,132,597	1,132,597	0	
	決算	677,046	72,828	320,478	備考のとおり	1,070,352	1,034,147	36,205	103.50%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位：千円)

令和2年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【その他収入の内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入：94,000、立替収入：16,467、補助金等収入：129,200、負担金収入：130,000、寄付金収入：2,000、他事業繰入金収入：4,146、特定資産取崩収入：30,000

(前々年度・決算) 事業収入：95,492、立替収入：11,824、補助金等収入：110,946、負担金収入：126,864、寄付金収入：1,917、雑収入：146、他事業繰入金収入：4,146、特定資産取崩収入：40,054

(前年度・当初予算) 事業収入：84,695、立替収入：6,675、補助金等収入：92,700、負担金収入：99,000、寄付金収入：2,000、他事業繰入金収入：12,711、特定資産取崩収入：26,233

(前年度・決算) 事業収入：70,278、立替収入：11,785、補助金等収入：96,312、負担金収入：74,000、寄付金収入：1,985、雑収入：481、他事業繰入金収入：12,711、特定資産取崩収入：32,707

(令和2年度・当初予算) 事業収入：82,541、立替収入：8,595、補助金等収入：91,300、負担金収入：50,000、寄付金収入：2,000、他事業繰入金収入：350、雑収入：26、特定資産取崩収入：9,400

(令和2年度・決算) 事業収入：38,244、受託収入：5,565、立替収入：6,209、補助金等収入：87,848、負担金収入：42,318、寄付金収入：1,575、雑収入：2,173、他事業繰入金収入：31,704、特定資産取崩収入：104,842

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計		支出	収支差額
前々年度	当初予算	600,363	176,160	352,948	備考のとおり	1,129,471	1,129,471	0	
	決算	600,363	228,107	512,063	備考のとおり	1,340,533	1,290,712	49,821	103.86%
前年度	当初予算	616,481	195,870	655,616	備考のとおり	1,467,967	1,467,967	0	
	決算	616,481	202,533	871,523	備考のとおり	1,690,537	1,680,183	10,354	100.62%
令和2年度	当初予算	615,674	194,417	490,690	備考のとおり	1,300,781	1,300,781	0	
	決算	684,209	119,680	460,583	備考のとおり	1,264,472	1,254,220	10,252	100.82%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和2年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【その他収入の内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入: 233,025、立替収入: 1,966、補助金等収入: 46,000、寄付金収入: 6,900、他事業繰入収入: 500、特定資産取崩収入: 64,557

(前々年度・決算) 事業収入: 343,243、受託収入: 1,755、立替収入: 11,172、補助金等収入: 53,748、負担金収入: 31,103、寄付金収入: 3,537、雑収入: 1,584、他事業繰入金: 500、特定資産取崩収入: 65,421

(前年度・当初予算) 事業収入: 490,622、立替収入: 1,720、補助金等収入: 53,500、負担金収入: 1,500、寄付金収入: 3,500、他事業繰入収入: 39,201、特定資産取崩収入: 65,573

(前年度・決算) 事業収入: 675,332、受託収入: 5,121、立替収入: 3,446、補助金等収入: 52,949、負担金収入: 3,058、寄付金収入: 3,473、雑収入: 431、他事業繰入金: 39,201、特定資産取崩収入: 88,512

(令和2年度・当初予算) 事業収入: 269,804、受託収入: 1,500、立替収入: 4,039、補助金等収入: 49,000、負担金収入: 2,000、寄付金収入: 3,500、他事業繰入収入: 39,520、特定資産取崩収入: 121,327

(令和2年度・決算) 事業収入: 136,320、受託収入: 10,980、立替収入: 1,196、補助金等収入: 108,740、負担金収入: 1,000、寄付金収入: 4,046、雑収入: 187、他事業繰入金: 30,677、特定資産取崩収入: 167,437

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計		支出	収支差額
前々年度	当初予算	1,217,666	404,368	758,761	備考のとおり	2,380,795	2,380,795	0	
	決算	1,217,666	466,446	903,452	備考のとおり	2,587,564	2,491,112	96,452	103.87%
前年度	当初予算	1,250,838	447,870	979,630	備考のとおり	2,678,338	2,678,338	0	
	決算	1,250,838	437,512	1,171,782	備考のとおり	2,860,132	2,844,980	15,152	100.53%
令和2年度	当初予算	1,248,003	450,473	734,902	備考のとおり	2,433,378	2,433,378	0	
	決算	1,361,255	192,508	781,061	備考のとおり	2,334,824	2,288,367	46,457	102.03%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和元年度 / 0 前年度 / 0 前々年度 / 0

<備考>

【その他収入の内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入: 327,025、立替収入: 18,433、補助金等収入: 175,200、負担金収入: 130,000、寄付金収入: 8,900、他事業繰入収入: 4,646、特定資産取崩収入: 94,557

(前々年度・決算) 事業収入: 438,735、受託収入: 1,755、立替収入: 22,996、補助金等収入: 164,694、負担金収入: 157,967、寄付金収入: 5,454、雑収入: 1,730、他事業繰入収入: 4,646、特定資産取崩収入: 105,475

(前年度・当初予算) 事業収入: 575,317、立替収入: 8,395、補助金等収入: 146,200、負担金収入: 100,500、寄付金収入: 5,500、他事業繰入収入: 51,912、特定資産取崩収入: 91,806

(前年度・決算) 事業収入: 745,610、受託収入: 5,121、立替収入: 15,231、補助金等収入: 149,261、負担金収入: 77,058、寄付金収入: 5,458、雑収入: 912、他事業繰入金: 51,912、特定資産取崩収入: 121,219

(令和2年度・当初予算) 事業収入: 352,345、受託収入: 1,500、立替収入: 12,634、補助金等収入: 140,300、負担金収入: 52,000、寄付金収入: 5,500、雑収入: 26、他事業繰入収入: 39,870、特定資産取崩収入: 130,727

(令和2年度・決算) 事業収入: 174,564、受託収入: 16,545、立替収入: 7,405、補助金等収入: 196,588、負担金収入: 43,318、寄付金収入: 5,621、雑収入: 2,360、他事業繰入金: 62,381、特定資産取崩収入: 272,279

【新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響と対応状況】

(※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う県の基本方針に基づき、4月から8月まで原則として閉館したことによる主催事業や貸館事業の中止に加え、9月の施設全面再開以降も、新型コロナウイルスの影響による主催事業等の中止・延期や貸館事業の利用率の大幅低下により、利用料収入は県民ホール本館では当初予算時からおよそ183,228千円、神奈川芸術劇場ではおよそ74,737千円の減となった。

②令和2年度の対応状況

収支状況の改善のため、休館期間を中心とした職員の時間外手当の削減、警備委託のポスト数の削減、清掃委託箇所による委託費の削減等を行った。閉館期間中の収入の減については、指定管理を行う3施設(県民ホール本館、神奈川芸術劇場、音楽堂)の経費の減との差し引きについて、県から補正により補填を受けたほか、施設再開に向けた感染対策費用についても補正により補填を受けた。

8. 苦情・要望等 該当なし

県民ホール本館

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	文書	2 件	階段がきつい等、バリアフリー化に関する要望 2件	大ホールでは、業務用エレベーターを使用した上層階への案内や3階席前方階とロビー階でエレベーター1機の直通運転による案内等を継続的に実施、小ホールでも、業務用エレベーターを活用した、階段を回避する導線でのご案内を適宜実施した。
職員対応		件		
		件		
事業内容		件		
		件		
その他	対面	1 件	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う県の基本方針に基づき、4月7日から8月31日まで施設を閉館することについて、一部の利用者（連名）から「8月31日まで閉館することの根拠を示して欲しい。そうでないとアーティスト、クライアント等に説明が出来ない。」との強い意見があった。	ご意見を頂いた利用者には県および館の方針を丁寧に説明し、ご意見・ご要望を伺う機会を3回にわたり設けた（館長、副館長、施設運営課長で対応）ほか、振替日程の提案を行う等、誠意を持って対応した。

神奈川芸術劇場

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応	対面	3 件	<p>公演時「ホール客席内でマスクを外して上演時間外に会話をされていたお客様がいるので注意して欲しい」というご意見あり。 一方、そのマスクを外されていた方より「他の観客よりマスク着用について直接注意され不快だった」とご意見あり。</p>	<p>お客様同士のトラブルを避け、マスク着用を周知する観点から、以降の公演で案内係によるマスク着用のご案内を強化した。</p>
			<p>お客様同士が隣り合う形で当日券販売を行ったところ、お客様より「前後左右1席空けて観覧できるはずが隣席に他の客が着席されていて不快だった」と強いご意見あり。 (主催公演)</p>	<p>当初未販売の客席エリア(見切れ席)において、お客様同士が隣り合う形で当日券の販売を行ったことによるもの。当日券で追加販売した席については、隣席に別のお客様が座ることに同意いただいた上でご入場いただいたが、前売席の一部が、当日券で販売したエリアの隣接席だったことに起因しており、以降の公演では、前売席の隣席は必ず1席空けるようにして当日券を販売した。</p>
			<p>ホワイエでマスクを長時間外されていた方がいたためお声がけしたところ「話しかける方が飛沫が飛ぶのでは」とご意見があり。 (主催公演)</p>	<p>観客すべての皆さまにマスク着用の協力をお願いしていることをお伝えし、丁寧に説明を行い、ご理解いただいた。</p>
事業内容	文書	1 件	<p>3月20日(土)の開演直後に大きめの地震があったが、終演後も含め特にアナウンスで触れなかったが、何かしらアナウンスがあると安心できる、とのご意見あり。(主催公演)</p>	<p>劇場の対応指針に基づき、場内の様子や照明等機材の落下などの危険性がないか等、安全を確認し、公演続行に問題なしと判断したため、上演を継続したことをお伝えした上で、上演に影響がなかった場合でも、休憩中や終演後に、地震の情報をすみやかにお客様にお伝えするよう改善を図る、と回答した。その後問い合わせされた方より、回答を聞くことにより安心した、との返信があった。</p>

その他	対面	3 件	「ロビーで会話をしている人がいるが、注意してほしい」という強い意見あり。(主催公演)	会話を控えるよう、場内アナウンスや各扉への掲示を強化した。また、場内案内係から注意喚起のアナウンス(手持ちの掲示)も積極的に行った。
			開演後來場された方が、1階アトリウムにてLINEコロナお知らせシステムへの登録・来場者登録カードの記入をいずれも拒否され、払い戻しを要求された。(主催公演)	その後、対応途中に、払い戻しは行わず、ご本人の意思でホールまでお越しになり、観劇された。
			開演前のアナウンスのタイミングがいつもと異なることや建物入館時の導線が分かりづらいことなどについてご意見あり。(主催公演)	コロナ対策のために、通常とは異なる動線や対応になっていることを丁寧に説明し、ご理解いただいた。
	文書	3 件	施設内で飲食をしていたところ止めるように言われ、他にも施設内で飲食をしている人もいたため、事前告知など案内方法を改善してほしいとの意見あり。(提携公演)	飲食禁止の掲示の強化を行い、HPの「ご来場の皆様へのお願い」でも目立つように表記を変更した。
			子どものマスク着用が必須ではない点(着用を義務づけて欲しい)についてご意見あり。(主催公演)	厚生労働省の「未就学児は無理に着用する必要はない」との指針に基づき、小学生以上の方にマスク着用をお願いしている旨を伝え、ご理解いただいた。
			近隣の席の観客が終始咳込んでいて、主催者側や劇場スタッフが声掛けや退出を促すなどの対応がなかったため、対策を強化してほしいとの意見あり。(貸館公演)	周りのお客様に影響が見受けられる咳込み等については、場内案内係から声掛けをしている。より一層、細心の注意を払って、安心して観劇できるよう努める旨、ご回答差し上げた。

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
(神奈川芸術劇場) 9月26日	①9月26日(土)、翌日開催の主催講座「視覚言語がつくる演劇のことば ラボ2」(事前申込制・無料・13:00～15:30にweb会議システム「Zoom」により実施)の参加申込者50名を10名ごとに5グループに分け、グループごとにメールで連絡。その際、本来であれば宛先(to)欄に劇場のメールアドレスを入力すべきところ、誤ってそれぞれのグループごとに参加申込者1名のメールアドレスを宛先(to)欄に入力し、残りの参加申込者9名のメールアドレスはBCC欄に入力したうえで、一斉送信。このため、(to)欄に入力された5名分の個人情報(メールアドレス)が流出した。 ②同日、県職員が電話連絡で確認。 ③送信後1時間程度で送信設定ミスに気づき、順次関係者に謝罪の連絡と受信した該当メールの削除依頼をおこなった。27日(日)までに受信者全員と連絡がとれ、謝罪とメールの削除を確認した。第三者への漏えい等はなかった。 ④なし ⑤担当職員がメールの一斉送信をする際に、複数職員によるチェックに怠ったことが原因。 ⑥なし

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	月3～4回	
随時モニタリングにおける指 導・改善勧告等の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>1. 一体運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3館の役割、機能を踏まえて、各施設を運営する。 ・音楽分野と演劇分野、それぞれに芸術監督を置き、その指導のもと神奈川からの芸術文化の創造・発信を強化する。 ・県や関係機関と一体となって東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、文化プログラムを推進する。また、子ども・青少年に次世代へ文化芸術の豊かさや多様性を伝えていく。 ・3館一体で効率的かつ効果的な施設運営を行い、利用者サービスの改善と、利用率の維持・向上に努める。 	<p><実施状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度年間を通じて、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響に伴い、政府及び神奈川県の方針に従い、各施設を運営した。 ・県の基本方針により、音楽堂では4月7日～8月31日まで閉館し、2度目の「緊急事態宣言」が発令された令和3年1月8日～3月21日まで原則休館となったため、多くの催し物が中止または延期され、年間利用率も大幅に下がった。 ・入場者数は年度目標166,000人に対して89.2%減の17,999人となった。 ・神奈川の文化力を象徴する3館合同事業として、「オープンシアター」及び一柳慧芸術総監督の神奈川芸術文化財団芸術総監督就任20周年記念プロジェクトの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、音楽堂では当初計画の内容を変更して実施した。 	
<p>2. 適切な管理運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料収入増及び経費の節減に努めるとともに、サービスの向上に取り組むなど適切な管理運営に努める。 ・また、防犯、防災対策、安全対策にも取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽堂の令和2年度の利用率は45.5%、利用料収入は8,957千円となり、年度当初見込み36,618千円から75%程度の減少となった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドラインや、感染者発生時の対応フローチャートの作成を行ったほか、「LINEコロナお知らせシステム」への登録を促すポスターや「感染防止対策取組書」、「3密」を避け「マスクの着用」、「飲食・会食をお控えいただくこと」など劇場マナーを呼びかけるサインを館内に掲出し、利用者・来館者に対して感染拡大防止を図った。また、館内の消毒、サーモグラフィの設置、飛沫対策のためのビニールカーテン・パーテーションの設置、足元マットの設置、換気の強化、スタッフのマスク着用の徹底等を行った。 ・オーケストラ、吹奏楽、合唱の利用が多いため、7月、8月に感染症専門医の監修の下、「合唱時の舞台上のソーシャル・ディスタンスの検証」、ホール内の気流の実証実験等を行い、コロナ禍での舞台上の人数制限を定めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、在宅勤務等を進めていたため、館全体での避難訓練は実施しなかった。代替案として年1回、火災・地震等災害発生時の対応マニュアルを机上にてシミュレーションし、手順の確認を行った。 	

<p>3. 自主的な企画事業について</p> <p>●芸術文化創造振興事業</p> <p>・開館65周年、改修工事後のリニューアルオープンを機に、音楽堂の優れた資産として強く発信した「文化遺産的建築」「木のホール of 優れた音響」「戦後音楽史を作った音楽ホールの伝統」という個性を継続して発信し、「室内オペラ・プロジェクト」の継続展開などで、新しい音楽堂のイメージ形成を強化する。</p>	<p>●芸術文化創造振興事業</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による4月～8月の閉館、出演予定の海外アーティストの渡航制限等により、主催・共催公演の多くが中止、延期、内容変更を余儀なくされたが、オンライン配信も取り入れ、音楽文化の発信の継続に努めた。</p> <p>・「音楽堂室内オペラ・プロジェクト」の第3弾では、鈴木優人指揮バッハ・コレギウム・ジャパンによるヘンデル「リナルド」をセミステージ形式で上演し、全国的にも高い評価を得た。また、シリーズ最終年度となった「音楽堂アフタヌーン・コンサート／東京混声合唱団」では、指揮者山田和樹の映像出演と、同団の常任指揮者キハラ良尚の指揮により、音楽堂を舞台にした合唱オペラ作品の世界初演を実現した。</p> <p>・一柳慧芸術総監督の就任20周年を記念し、県民ホールと合同で行った「Toshi伝説」では、室内楽、邦楽、現代音楽のコンサートやホワイエでのクロストーク、インスタレーション「エレクトロニクス卓球台」、パネル展示など音楽堂の特性を生かした総合的な公演を行い、高い評価を得た。</p> <p>[主催事業：5事業6演目6公演6企画8回 入場者数1,512人 配信等視聴者数2,272] [共催事業：6事業9演目13公演1企画1回 入場者数3,514人 配信等視聴者数645]</p>	
<p>●芸術文化鑑賞普及事業</p> <p>・音楽芸術に触れる喜び、またそこに至るにはさまざまなアプローチがありうることを、子ども・青少年に重点をおきつつ、幅広い年齢層の方々に届ける。</p> <p>・遠方で音楽堂に来にくい地域にアウトリーチを行うことで、音楽ホールへの最初の扉を開く。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による事業内容の変更はあったものの、映像コンテンツの制作に積極的に取り組むことで、全面中止となった事業はなかった。</p> <p>・指揮者三ツ橋敬子と神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏で子どもたちに音楽体験を届けてきた企画の最終年度は、公演は中止となったが、本編3本、関連映像4本の子ども向け音楽番組を制作し、Youtubeで配信するとともに、県内の公国私立小学校全校及び外国人学校約900校に無料DVDとして届けた。</p> <p>・「オープンシアター」ではリアルイベントのライブ収録と特設サイト上でのオリジナルコンテンツを併行展開し、日本～アジア～世界というテーマに基づき、幅広いコンテンツを届けた。</p> <p>・アウトリーチ事業では横浜市芸術文化教育プラットフォームとの連携による小学校コンサートや箏の授業を行った。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況を鑑み、特別支援学校を訪問の代替企画として、NTTドコモの協力により、5Gを使ったリアルタイム双方向ワークショップを実施した。</p> <p>主催事業 [4事業1演目1公演17企画27回] 入場者数526人 配信等視聴者数12,437]</p>	

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況も含めて、「実施状況等」欄に記載。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
リフレッシュ・サービス	これまでは、自主事業公演等開催時に、来館者へのサービスとして、ホワイエで県内福祉作業所の焼き菓子や飲み物等の販売を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、現在は中止している。

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

5. 利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和2年度
利用者数※	6,948	125,897	17,999
対前年度比		1812.0%	14.3%
目標値	0	138,333	166,000
目標達成率	—	91.0%	10.8%

目標値の設定根拠：

経営改善目標

利用者数の算出方法（対象）： 主催事業は指定管理者が確認、共催・貸館事業は主催者からの報告による（対象者：施設への来館者、利用者）

注：音楽堂は、平成30年4月～平成31年3月まで改修工事による全館休館のため、他会場で実施した主催事業の入場者数を計上。令和元年度は、開館準備のため4月、5月休館。

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】

（※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載）

①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う県の基本方針に基づき、4月7日から8月31日まで原則として閉館したほか、9月の再開以降もイベント開催制限に伴い収容率を制限する等の対策を行ったこと、また、1月8日から原則休館にしたことから、利用率・利用者数は大幅に減少した。

②令和2年度の対応状況

上記閉館期間中に、来館者に向けた新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドラインを作成した。音楽堂は特に合唱での利用が多いことから、ガイドラインの有効性を検証するため、感染症専門医の監修の下、「合唱時の舞台上のソーシャル・ディスタンスの検証」をアマチュア合唱団の協力を得て実施し、あわせてホール内の気流の実証実験なども行い、コロナ禍での舞台上の制限人数を定めた。また、利用者、来館者に向けて、「LINEコロナお知らせシステム」への登録を促すポスターや「感染防止対策取組書」、「3密」を避け「マスクの着用」、「飲食・会食をお控えいただくこと」など劇場マナーを呼びかけるサインを館内に掲出し、感染拡大防止を図った。また施設の感染対策として、受付へのパーテーションの設置、各楽屋への換気扇の設置、通路にサーキュレーターを設置する等、換気の強化に取り組んだ。

7月10日に県の対処方針に基づき大規模イベントの自粛要請が解除されたことから、8月に共催3公演、貸館1公演の計4公演を先行して再開した。

9月の施設全面再開以降は、県の対処方針に基づくイベント開催制限により、歓声を伴う公演は収容率50%以内での実施を利用者に要請したほか、令和3年1月8日～3月21日の緊急事態宣言中のイベントについては、すべて収容率50%以内での実施を要請した（既存販売分を除く）。

6. 利用者の満足度

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
満足度調査の実施内容	(1) 簡易アンケート 管理施設の窓口等に常時用紙を備え、管理施設の利用者等に対して、簡便な方法で常時実施するアンケート (2) 詳細アンケート 年1回、時期を定めて、より詳細な質問項目のアンケートを、管理施設の利用者等へのアンケート用紙の配布及び管理施設ホームページにおいて実施し、結果を分析するアンケート	<ul style="list-style-type: none"> 利用者について 有効回答数は5件であった。 「施設を利用した全体的な印象」、「施設・設備を利用した感想」、「職員の対応」、「事務手続き・料金」については大半が「満足」「どちらかといえば満足」や「良い」「どちらかといえば良い」との回答であることから、概ね評価していただいていることが分かる。 「今後の音楽堂の利用予定」の設問に対しては、「次回の手続きが決まっている」が50%であった。

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 今回、施設をご利用いただいた全体的な印象をお聞かせください

実施した調査の配布方法 用紙配布 回収数/配布数 5 / 9 = 55.6%

配布(サンプル)対象 公演等の主催者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	5	0	0	0	5	
回答率	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
前年度の回答数	5	1	0	0	6	
前年度回答率	83.3%	16.7%				
回答率の対前年度比	120.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

<p>【新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響と対応状況】 (※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)</p>
<p>①新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響 令和2年度の満足度調査実施期間とした12月1日から1月6日は、新型コロナウイルス感染症の影響により例年と比較して利用者数が少なくなった。 新型コロナウイルスに伴う満足度の低下に言及した意見はなかった。</p>
<p>②令和2年度の対応状況 満足度調査において新型コロナウイルスに関する相談要望等は特になかった。</p>

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
S	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	161,551	0	22,141	備考のとおり	183,692	183,692	0	
	決算	161,551	0	36,798	備考のとおり	198,349	186,806	11,543	106.18%
前年度	当初予算	221,802	30,556	136,289	備考のとおり	388,647	388,647	0	
	決算	221,802	26,313	102,239	備考のとおり	350,354	350,267	87	100.02%
令和2年度	当初予算	199,042	36,618	72,604	備考のとおり	308,264	308,264	0	
	決算	201,062	8,957	60,963	備考のとおり	270,982	256,090	14,892	105.82%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和2年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

(前々年度・当初予算) 事業収入：7,781、補助金等収入：10,500、受託収入：360、寄付金収入：800、立替収入：1,700

(前々年度・決算) 事業収入：7,627、立替収入：1,565、補助金等収入：18,015、受託収入：558、寄付金収入：977、雑収入：56、他事業繰入金収入：1,000、特定資産取崩収入：7,000

※平成30年度は1年間、改修工事のため休館

(前年度・当初予算) 事業収入：49,033、受託収入：360、立替収入：131、補助金等収入：50,000、寄付金収入：1,000、他事行繰入金収入：6,703、特定資産取崩収入：29,050

(前年度・決算) 事業収入：20,995、受託収入：563、立替収入：131、補助金等収入：40,356、寄付金収入：2,207、雑収入：50、他事業繰入金収入：6,703

※4月～5月の2ヶ月間は改修工事のため休館

(令和2年度・当初予算) 事業収入：37,551、受託収入：360、立替収入：143、補助金等収入：23,370、寄付金収入：1,700、他事業繰入金収入：4,080、特定資産取崩収入：5,400

(令和2年度・決算) 事業収入：8,430、受託収入：126、立替収入：118、補助金等収入：20,564、負担金収入：49、寄付金収入：887、雑収入：371、他事業繰入金収入：19,460、特定資産取崩収入：10,958

【新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響と対応状況】

(※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う県の基本方針に基づき4月から8月まで原則として閉館したことによる主催事業や貸館事業の中止に加え、9月の施設全面再開以降も新型コロナウイルスの影響による主催事業等の中止・延期や貸館事業の利用率の大幅低下により、利用料収入は当初予算額からおおよそ27,661千円の減となった。

②令和2年度の対応状況

収支状況の改善のため、休館期間を中心とした職員の時間外手当の削減、警備委託のポスト数の削減、清掃委託個所による委託費の削減等を行った。閉館期間中の収入の減については、指定管理を行う3施設(県民ホール本館、神奈川芸術劇場、音楽堂)の経費の減との差し引きについて、県から補正により補填を受けたほか、施設再開に向けた感染対策費用についても補正により補填を受けた。

8. 苦情・要望等 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応		件		
		件		
事業内容	電話	1 件	10月31日主催「リナルド」の急な出演者変更について「チラシも張り紙も無かった」とのご意見があった。	ホームページ等では周知していたが、十分に伝わらなかったことについて、電話口で担当よりお詫びした。
その他	文書	3 件	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う県の基本方針に基づき、4月7日から8月31日まで施設を閉館することについて、「緊急事態宣言期間以降の閉館は、法的根拠が無く、強制的で納得がいかない」と一部の利用団体から強いご意見があった。（2件）</p> <p>8月12日の共催公演に来館された男性より、書面にて「2階ホワイエで軽食をとろうとしたが、案内係の女性にここでは食事が出来ないと注意された。1階に移ったが、追いかけてきて再度注意された。食事のできる部屋を用意していたらしいが、その案内や表示がなかった。」との意見があった。</p>	<p>ご意見を頂いた団体には、県の基本方針について丁寧に説明を行い、振替日程の提案や、予定通りの公演実施に向けた調整等、誠意を持って対応した。</p> <p>音楽堂から主催に連絡をとり、お詫びを連名で文章にてお送りした。</p>

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。